

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

総会には実践指定校の教師やNIEアドバイザー、加盟新聞社の代表ら約60人が出席。高辻会長が「新学習指導要領にある通り、新聞の教材としての価値がますます高まっている。地域によつては新聞が子供にとって身近な存在でなりつつ

ある。生きた教材として新聞が日常的になるよう、進取の気性に富む活動を行つていきたい」とあいさつした。

り、教育的に重要だ。全校で取り組む予定だ。先進事例を参考に、できることを一つ一つやっていきたい」と抱負を述べた。

また17年度の実践指定校から、優れた実践報告をまとめた3校を表彰した。

実践指定校36校本年度
北海道NIE推進協議会（高辻清敏会長）の20
8年度総会が5月12日、北海道新聞社特別会議室
開かれ、北海道セミナーの開催やNIEアドバイ
ーの活動支援の拡充を盛り込んだ本年度の活動計
案などが承認された。NIE実践指定校36校の内
も報告された。

アドバイザー支援拡充



会場であいさつをする実践指定校の新規校
教諭たち

「5人」から「5人程度」に改定された。

「いつしょに読もう」
投稿作品を募集中

る。応募用紙は日本新聞協会のウェブサイト(<http://>

日本新聞協会が認定する
道内のNIEアドバイザー
のうち、3月末で2人が退
任し、2018年度から新

アドバイザー、2人が交代

教切
科り書抜
深き掘柱
りに

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. The photo is set against a light blue background and is enclosed in a white oval border.

△別海町立野付中・飯田旅社
校長(53)

雅輝教頭 (4)

長年、壁新聞作りを指導してきた。その経験を基に新聞作りのノウハウを残そうと、製作マニュアルをビデオにまとめたこともある。また、「総合的な学習」の時間で記事の読み比べにも取り組んできた。「新報は、思考力、判断力、表現力などを含む『学力の三要素』を高める素材の宝庫。その良さを広く伝えたい」と抱負を語る。

NIEとのつながりは10年余り。その間、生徒が新聞記事を切り抜き感想を添える「スクランブル活動」を実践の上に据えてきた。さらに、社会や美術の授業でも記事を使うなど、意欲的にNIEを展開してきた。「記事を活用することで、教科書の内容を深く掘り下げることができる。今後も活動を進めていきたい」と意欲を見せていく。

北海道NIE研 新会長に齊藤氏

北海道NIE研究会は5月12日、2018年度総会を北海道新聞社NIEプラザで開き、事業計画を承認した。役員選出では、上村

齊藤拓也新会長



尚生会長（前札幌市立星置東小校長）が退任し、後任の第5代会長に齊藤拓也副会

長（札幌市立信濃小校長）が選ばれた。

というキーワードで交流で
きる。新聞記事の教育的価
値を生かして取り組んでい
きたい」と就任の抱負を述べ

野十勝新氏が聞研任は

来夏には全国大会

北海道十勝新聞教育研究会は4月24日、帶広市立帶広小学校で2018年度総会を開き、来年夏、7年ぶりに全国新聞教育研究協議会の全国大会として帶広・十勝大会を開催することを内定した。7月に実行委員会を立ち上げる。

役員改選では中村宏喜会長（鹿追町立鹿追中学校長）が退任し、その後任の新会長を立てる。

（帯広市立つづじが丘小学校長に野上泰宏副会長・写真校長）が就任した。野上新会長は就任のあいさつで「普段から指導力を磨き、授業のスキルアップを図ることが大会を成功に結びつける」と呼びかけた。

読む習慣 今も／読まぬ学生への指導痛感

京都生まれの私にとつて今年4月で、京都新聞と北海道新聞を購読する期間がちょうど22年ずつになりました。新聞は私にとって生活の一部です。活字に接する朝の時間は好奇心をかき立て、同時に脳を活性化させています。いつも「この記事は授業に使えないかなあ」と思つて読んでいます。時々、山積みになつた記事を掘り起こして記事を切り抜く姿は、家族から白い目で見られていますが……（笑）。

釧路市立北中学校教諭

池田 泰弘



NIE実践奮闘記

にして、新聞は社会の窓口であると思つていまし
た。また、私の父が市役所勤めのため、幼いころから必然的に新聞を読むことが家庭での習慣となつ
た。第一回は社会科の授業です。特に、記事の読み取りに力を入れています。新聞は単語の宝庫であります。言語力に影響を与えることがあります。また、教科書を補完する役割があり、学

学会で研究発表をしました。テーマは「NIE類型論に基づく授業開発研究」。新聞記事の特性に応じた授業方法論を提案しました。大学の先生方から厳しいご指摘を頂きましたが、新聞を活用する授業の開発に向けて新たな意欲を持つことができまし

異なる感覚の授業もありました。すべき点は多くの新聞を読んでいたでした。新聞を読んで、新規を活用して、新規を育てるなどと痛感しました。

異なる感覚の授業に戸惑いもありましたが、特筆すべき点は多くの学生が新聞を読んでいないことでした。新聞を読みこなして、新聞を活用できる先生を育てることが大切だと痛感しました。

ました。その時、布団代わりに活躍したのが新聞でした。

学生時代、朝の電車内で新聞を四つ折りにして読む社会人を目の当たり

ていました。今もその習慣を継続しながら、社会の変化を新聞から捉え、子どもたちの社会認識形成を目指しています。

私は新聞を次の三つの方法で活用しています。

二つ目は、NIEの理論構築です。昨年11月、京都で開かれた日本NIE

三つ目は、大学の講義です。今年2月に北海道教育大学釧路校で「中学校社会科教育法Ⅲ」の集中講義を担当しました。テーマは「池田のNIE」。私の独自の視点でNIEの理論や実践を紹介しました。普段とは

る新聞記事の活用だけでではなく、体で感じる新聞の活用もあります。私が新採用のころ、研究授業の指導案を徹夜で作成することになりました。夜が明ける前、さすがに睡魔に襲われ、ストーブの前で仮眠することになり

見しました。災害時の新聞活用という新たな視点を開発できないものかと考えています。

これからも、頭と体を使つて新聞との奮闘を続け、知的な活用フィールドを求めていきたいと思います。

に充実してきた。この流れを引き継いでいってほしい」と話した。

た。
上村前会長は退任のあい
さつで「(NIE)数年、(NIE)

に充実してきた。この流れを引き継いでいくてほしい」と話した。

ただでさえ新聞を読む人は減り、忙しい購読者も毎日すべての記事に目を通しているわけではない。いくら記者側で「良い記事」を書いたと自己満足しても、本当に読者に情報は届いているのだろうか。記者は記事だけ書いていれば良い時代ではない、というのが個人的な実感だ。

共に行動するのが記者の一つの理想像だ。自分たちの新聞を、そして伝えたい情報を知つてもらうためには、紙面だけでなく、あらゆる手段で読者にアプローチする。NIEも新聞に触れてもらう積極的手段の一つだが、十勝毎日新聞社の実例を2つ紹介する。

リレーエッセー 多紙彩々

の接点 広げたい

祐己

報などを、原則毎日更新している。その中で十勝毎日新聞掲載の子育て関連記事も紹介している。

イベントは、ウェブのコラムニストの人々の講座（読み聞かせからボードゲーム大会、親子ヨガまでテーマはいろいろ）や、地域のママサークルの人々と協力したミュニケーションのワークショップなどを開催。地域の子育て関係者がつながる場として企画した「とかち子育てフェス」は、昨秋の2回目の開催では約1000人が訪れた。

二つ目は、昨年4月から編集局などで取り組む「動物園のあるまちプロジェクト」である。このプロジェクトには多くの市民が集まり、映画で共に涙を流し、トークショーでは自分たちのまちの動物園の将来を考える輪が広がった。私も司会で参加させてもらつたが、こうした市民と直接つながる美しさは紙面だけでは得られないと強く感じた。

このような新しいつながりをどう確実に新聞・電子版購読につなげていくかはこれから課題で、NIEも同じだろう。ただこちら側からどんどん出て行き、市民との接点を増やしていくことこそが、新聞の未来につながると信じている。

編集後記

○…夏を思わせる日差しが
続く6月、道都・札幌は観光シ
ーズン到来を告げています。
北海道を満喫しようと訪れる
人たちは、その目的に広大な
自然を挙げます。なるほど国
土の5分の1近くを占める地
域は実際に来ないとその広さ
を実感できないでしょう。

○…北海道のNIE推進協の活動には、その広さが立ちはだかります。本年度のセミナーは10回。事務局員の出張では宿泊を伴う開催地が多く、鉄路の廃線などでレンタカーのハンドルを長時間握ることもあります。同じことは出前

授業にも当てはまり、地方からの要望に応え少ない担当者が交互に出張します。高速列車1本で県境を越え日常交流する本州のNIE活動がうらやましいとも思います。

○…それでも地方で奮闘するアドバイザーや教諭の皆さんの熱意が強みです。この冬、3年ぶりに開いたアドバイザーハウスには多数が参加し、悩みや意見の開陳を通じ活動を充実させることを確認しました。アクティブ・ワーキングの季節も夏、まさに始まろうとされています。（森）

子育て応援 / 動物園企画



ゾウの「ナナ」への市民からのメッセージが寄せられた ゾウ写真展の会場

一つは、若い世代、女性層へのアプローチとして3年前に始めた社内横断＆地域協働プロジェクト「とかち子育て応援ラボ」だ。社内の子育て中の記者と、販売、事業、広告、FMなどのグループ社員が協力して、ウェブマガジンの運営と、各種イベント開催に取り組んでいる。

ウェブマガジンは、ネット上に「あるようでない」地元十勝の子育て情報を発信する場として、教育や育児分野などで活躍する地元の人々のコラム、記者・社員が自らブログ感覚で発信するお店やお出かけスポット情

今年4月にはゾウをテーマに展開。おびひろ動物園の長寿のアジアゾウ「ナナ」と、2014年に66歳で死んだ大阪市天王寺動物園の「春子」の2頭のおばあちゃんゾウに焦点を当

岡大会（日本新聞協会主催）が7月26、27日、盛岡地域交流センター・マリオス（盛岡市盛岡駅西通2の9）を主会場に開かれる。

大会のスローガンは「新聞と歩む復興、未来へ」。2011年の東日本大震災後、被災3県で開催するのは初めて。同市内のほか、震災時、津波被害が深刻だった沿岸部の大槌町でも開催される。

初日の26日は午後1時から

らの開会式に続いて、齋藤孝・明治大学教授が「新聞力と復興」を演題に講演する。この後、盛岡大会実行委員会の盛岡善次委員長（岩手県NIE協議会会長）が基調講演し、座談会で世代間の交流を深める。

2日目は午前9時から、災害や復興をメインテーマに8小中高の公開授業のほか、実践発表や特別分科会が行われる。これとは別に大槌町では16年に開校した小中の一貫校、町立大槌学園では、子どもが「希望新聞」づくりや古里の未来を語る公開授業がある。学園の授業風景はマリオスでライブ中継される。

復興へのエール NIE全国大会 来月、岩手県で